

# 女性の貧困から見る格差社会

働く世代の単身で暮らす女性の3人に1人が貧困の状態になっている衝撃的な数字が2011年に明らかになりました。彼女らは働き方や家庭の経済力による格差、また社会の経済状況に翻弄された結果、貧困に陥ったにも関わらず社会保障は確立されず、置き去りにされ、見えない存在にさせられています。

今回、様々な形で女性の貧困の可視化に心を砕いておられる栗田隆子さんを発題者に迎えました。バブル経済崩壊以降、目を背けてきた格差が今やどのような形になっているのか考えます。

発題者 くり た りゅう こ **栗田隆子さん**（働く女性の全国センター代表）

進行 山村暁子（カトリック正義と平和協議会）

**2017年9月9日（土） 14:00~16:00**

**場所：カトリック会館 6階**

京都市中京区河原町三条上る

栗田隆子さん

1973年東京生まれ。

大学院博士課程中退後、派遣、非常勤などで働き始める。

**参加費無料**

“働けと言わないワーキングマガジン”フリーターズフリーを共著、共同編集で発行。その後、光文社新書から“高学歴女子の貧困”を共著で発行。その他エッセイ、論考多数。現在、派遣で働きながら、働く女性の全国センター代表を務める。

**主催：京都教区カトリック正義と平和協議会**

お問い合わせ先：075-223-2291（直通）

